

幸福の谷

ニューズレター

GNHコミュニティ・エンゲイジメント・センター

(シェラブツェ・カレツジ)

JICA パートナシップ・プログラム
「ブータン東部タシガン県における大学-社会連携による
地域づくりに関する人材育成開発支援事業」

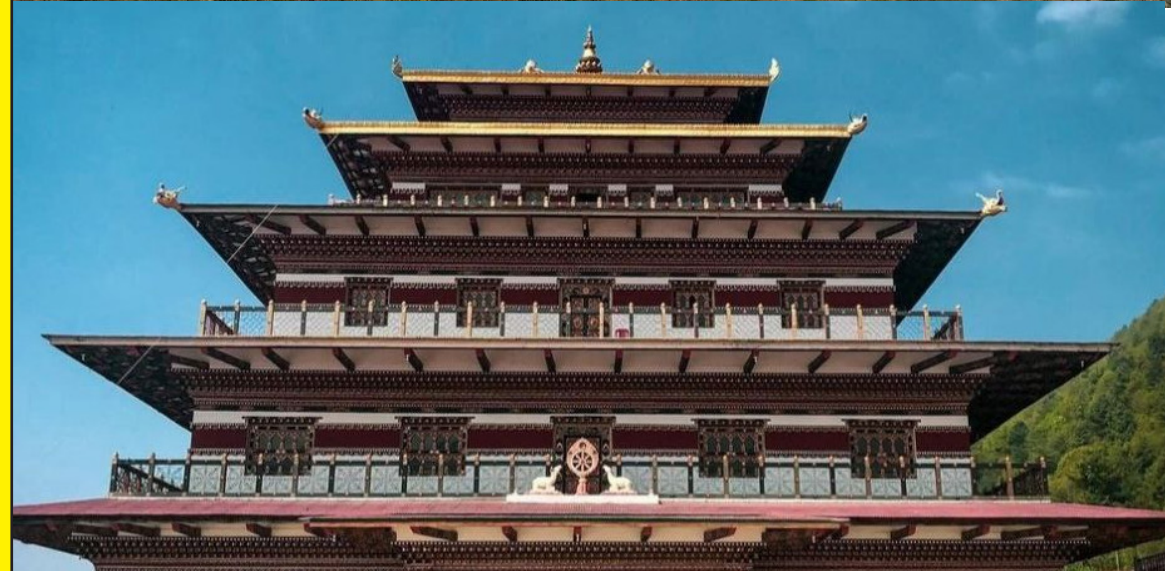
7月号

本ニューズレターのいかなる部分も出版者の許可なく、いかなる形式または手段によっても複製することはできません。



幸福の谷

2022年7月 第1巻第1号



バルツァム



ニューズレター

センターの概要



GNH ・ コミュニティ ・ エンゲイジメント ・ センター

私達のビジョン

- 人々の幸福と幸福を高めるための農村開発を支援する優れた環境を作り出す

私達の使命

- 制度とコミュニティの連携を確立する
- 草の根レベルで目標とする実践的なGNH値を設定する
- 農業・幸福・農村開発に関する社会的・歴史的研究を行う
- 国家的・文化的独自性を維持し、幸福を促進する上でのつながりを維持する
- 農村コミュニティの改善のための支援サービスを提供する
- ボトムアップ型の計画作り手法を強化する



学長挨拶

皆さんこんにちは!

「ブータン東部タシガン県における大学-社会連携による地域づくりに関する人材育成支援事業」のニュースレター第1号を発行出来たことを嬉しく思うとともに、大変感謝しております。このプログラムは、シェラブッチェGNHコミュニティ・エンゲイジメント・センターにとって、創立以来の重要なマイルストーンとなります。

コミュニティ・エンゲイジメントの活動は、私達のカレッジとブースン王立大学にとって、一つの重要な要素です。私達は共同体の責任として、学期ごとに幾つかの活動を計画・組織化しています。



ツェリン・ワンディ氏
(学長;プロジェクト・アドバイザー)

京都大学東南アジア地域研究研究所の先生、JICAの専門家、地元のハッピーファーマーズ・グループと協力して実施される三年半のプログラムは、学生や学部が地域社会と協力して知識や資源を共有し、普及させ、学識を豊かにする(革新的な教育と学習の実践を促進する)良い機会です。さらに農業・幸福・農村開発に関する社会的及び歴史的研究を行う良い機会ともなります。

コミュニティ・レベルでの問題解決に教室の知識を適用することを奨励することで、学生がプロジェクト管理、チームワーク、コミュニケーションにおいて、より適応可能なスキルセットを獲得し、大学卒業後の生活に備えるのを助けたいと考えています。学生と教職員は、Gup・Tsokpa・ハッピーファーマーズ・グループなどの経験豊富で強力なコミュニティ・リーダーと共に働く機会を得ます。このつながりは、彼らの仕事上のネットワークの拡大に役立つだけでなく、私達は、彼らが村に戻ってからの仕事上の進路にも役立てて欲しいと願っています。このプログラムの主な目的の一つは、コミュニティが地域の学生・学部・京都大学東南アジア地域研究研究所の専門家やJICA職員と相互に影響し合うことで、広範囲にわたる利益を得ることです。知識の移転や交換とは別に、コミュニティでは、その目標達成のために必要な人的資源と社会的資本の開発を通して恩恵を受け、そのことがまた、主要な問題に対する意識を高めることにつながります。また、県と郡のサービス・プロバイダーと綿密に協力し、地域社会における専門的及び知的インフラの改善を支援したいと考えています。このプロジェクトは、また、コミュニティ・カレッジ・大学との関係を強化するためにも役立ちます。私達は、このプロジェクトが、農村開発を支援する教育のあり方とそのやり方を進展させ、人々の幸福と健康を改善するために、大いに役立つことを確信しています。

パートナーである東南アジア地域研究研究所の運営管理・技術支援、現地パートナーのハッピーファーマーズ・グループの協力支援、JICAの資金援助に感謝いたします。

ツェリン・ワンディ
(シェラブッチェ・カレッジ学長)



プロジェクト・マネージャー挨拶

まずは、現場で活躍されている赤松芳郎さん、チャンドラさん、ソナム・チョーデン・ツェリンさん、ペマ・チョーデンさん、生駒忠大さん、石内良季さん、そしてシェラブッチェ・カレッジとバルツァム郡の皆さんに心から感謝申し上げます。JICAの「ブータン東部タシガン県における大学・社会連携による地域づくりに関する人材育成支援事業」が2022年3月1日にスタートしました。



坂本龍太博士
(プロジェクト・マネージャー)

協働活動の目標は3つあります。

- (i) 農民・地域住民の生活向上
- (ii) 地域医療制度の整備
- (iii) 地域資源（文化・自然）の保全・活用

現状では、(i)については、主に有機農業の技術支援を行う予定です。(ii)は、主にバイタルサインの確認や健康診断の実施に関する教育支援、(iii)については、主に民族博物館の整備や地域文化の記録支援について、村人、県事務所、NGO、学校、病院、県庁、関係省庁等と協力しています。これらの課題は、日本の有機農業を視察して関心を示したブータン人、ブータンのコミュニティで働いてきたブータンの保健スタッフの声、日本の農村地域を訪れた大学教員の声など、現場から直接聞いた声などに基づいています。不足がちな野菜・果物の摂取促進の観点からは(i)と(ii)は密接な関係があり、高齢者向けのセラピー計画が(ii)と(iii)の両方に寄与し、農具や農法の保存の観点から(iii)と(i)は関係しています。したがって、協働活動の3つの目標は、相互に関連し合っているといえます。

本プロジェクトは、大学と地域社会の主要アクターをメンバーとして定期的に合同会議を開催し、大学とコミュニティ間の社会的協働のための試験的なカリキュラムを作成することを目的としています。本事業の計画期間は三年半としていますが、本事業が、時と場所に合わせた目的と手法により、ブータンにおける地域に根ざした研究・教育活動の再生に貢献することを期待しています。

振り返ってみますと、安藤和雄さんが2010年11月17日にブータン王立大学シェラブッチェ・カレッジを初めて訪問した際、私はシェラブッチェ・カレッジの会議に出席していました。その時同じタシガン県にあるカリン郡の中央保健ユニットで医師として働いていたのです。私にとって印象深かったのは、彼がブータンでの自身の活動について説明するのではなく、まずは大学のメンバーと友達になりたいという気持ちをはっきり表してくれたことです。その後、日本からブータンへ、ブータンから日本へ、双方向の交流が継続的に実施された結果、本プロジェクトが生まれました。

このプロジェクトでは地元の人々との双方向、協力的、そしてお互いの尊重の重要性を強調したいと思います。これから地域に滞在されるメンバーの皆さんには、ご自身の健康に気を配っていただきたいと思います。どうか村の人々とはお互いに敬意を持って接し、一緒に働き、彼らと良いチャロ（友情）を作ってください。ご協力のほど、宜しく願いいたします。

坂本 龍太
敬意を表して

プロジェクトの概要

JICAパートナーシップ・プログラム

「ブータン東部タシガン県における大学－社会連携による地域づくりに関する人材育成開発支援事業」

委託者：JICA（独立行政法人）国際協力機構） 受任・実施者：京都大学、シェラブツェ・カレッジ 期間：2022年3月1日-2025年8月29日（3年半）

目標

- 本プロジェクトは、ブータン王立大学シェラブツェ・カレッジのGNH-CEC（コミュニティ・エンゲージメント・センター）の活動を支援することを目的としています。
- GNH-CECにおいて、社会パートナーシップ・プログラム（地域社会や関係機関と連携した研究・実践研究）の実施を通じて、農村開発課題に取り組む人材育成を推進します。
- GNH-CECを通じたシェラブツェ・カレッジのコミュニティ・エンゲージメント・システム（カリキュラム・モジュールなど）の制度化を行います。
- GNH-CEC（シェラブツェ・カレッジ）と地域社会とのパートナーシップを強化します。

ソーシャル・パートナーシップ・プログラム(SPP)

目標

- GNH-CEC（シェラブツェ・カレッジ）と地域社会とのパートナーシップ関係（ウィエ・ウィンに基づく関係）の強化[1]
- ソーシャル・パートナーシップ・プログラム(SPP)のフィールドとコミュニティの問題に基づく教育の推進（学生）[2]
- 学術研究の推進と社会・地域へのフィードバック（教員）[3]
- 農村開発への貢献と地域課題の実践的活動による解決[4]
- GNH-CECと地域の利害関係者の様々な活動と実施のための能力構築[5]



対象地域

- タシガン県バルツァム郡(農業・文化関係)
- タシガン県 (保健関係)

対象グループ/人

- 教員と学生 (GNH-CEC/シェラブツェ・カレッジ)
- 地域の受益者
- 農民とハッピーファーマーズ・グループ (バルツァム郡)
- BHU (基礎保健ユニット) 及び村のヘルス・ワーカー (タシガン県)
- 地方行政官 (バルツァム郡のGUPオフィス)
- 中央学校等

プログラム内容

- シェラブツェ・カレッジと京都大学の支援によるGNH-CEC/プロジェクト・メンバーによるソーシャル・パートナーシップ・プログラム (SPP) の計画準備と実施
 - ソーシャル・パートナーシップ・プログラム(SPP)によるフィールドとコミュニティの問題に基づく教育の推進 (学生) [2]
 - 学術研究の推進と社会・地域へのフィードバック (教員) [3]
 - 実践活動 [4]
- 農業問題に関する実践活動 (安藤氏、シンリー氏)
- 地域医療課題の実践活動 (坂本氏、タシ氏)
- 地域資源の保全・コミュニティ開発への活用のための実践活動 (赤松氏、ソナム氏)

調整委員会 (CC) の設置及びソーシャル・パートナーシップ・プログラムの審議・実施のための定例会議の開催 ([1][5]) [メンバー]

- GUP地方行政官 (議長)
- プロジェクト・オフィサー (ブータン人・秘書)
- 副プロジェクト・オフィサー、他メンバー
- ハッピーファーマーズ・グループのメンバー
- RNR普及事務所職員
- バルツァム郡中央学校長
- JICAブータン事務所職員
- 地域の受益者



ブータンと日本の相互学習と国際関係強化のための交流事業の実施（前掲 [1]-[5]）

- プロジェクト・メンバー：（シェラブツェ・カレッジ講師/学生）
- 保健省/BHU（基礎保健ユニット）
- 地元住民（地方自治体/農民/受益者）
- 地元住民（開業医）

SPP - 実践的なプログラム

農業問題に関する実践的活動：

キーワード：*耕作放棄地、有機農業、生産物の多様性、マーケティング、栄養活動*

- 定期的な野菜市場調査の実施
- モデル農業システムとモデル農家の設定、及び野菜栽培とその売り上げ調査
- モデル農家による野菜栽培の普及プログラム実施の支援

地域医療活動の実践的活動

キーワード：*高齢者医療、VHWs、基本的な人間のニーズ*

活動：

- 基本的な医療機器（体温計・血圧計・パルスオキシメーター）をタシガン県のBHUとORCに配布する
- BHUスタッフと村の医療従事者のトレーニング・プログラムを提供する
- 地域保健システムと社会福祉を改善するための地域医療プログラムを実施する

地域資源の保全・活用のための実践的活動：

キーワード：*地域の文化と歴史、評価と利用、教育、観光*

活動：

- 地域コミュニティの資源の保全と開発プログラムの実施（コミュニティ博物館の設立、古代の道（交易・巡礼路）を散策道にする）
- 地域資源の活用プログラム（地域に根ざした試験的観光プログラム、中央学校との協働による地域教育プログラムを実施する）

その他の活動・プログラム

- ベースライン調査（1年目）：主にシェラブッチェ・カレッジの学生がコミュニティ（特に農業・医療・地域文化）の現況に関する情報を収集し、プロジェクトごとに指標を設定
- エンドライン調査（3年目）：情報を収集して、プロジェクトの最初と最後に指標がどのように変化したかを確認
- キックオフミーティング
- 中間ワークショップ（2023年10月、11月）
- 最終ワークショップ（2025年5月、6月）
- 論文発表：ヒマラヤ研究モノグラフ（査読付きジャーナル）
- 書籍出版（2025年8月）：一人のプロジェクトメンバーが、少なくとも一つのセクションを執筆
- 最終報告書（2025年8月）：JICAに提出





なぜ東ブータンなのか？



図1. プロジェクト・サイト



図2. Nagtshang (バルツァム郡)

京都大学とブータン王立大学シェラブツェ・カレッジは覚書(MOU)に基づき、2011年から共同研究を行っています。シェラブツェ・カレッジがある東ブータンは、外国人の研究者にとっては特に魅力的なフィールドの一つです。ブータン東部の住民の大半は、「シャルチョッパ」または「チャングラ」と呼ばれ、ブータンで最も古い住民の一つと考えられています。彼らの言語、文化、社会の特徴はブータン社会の間でよく区別されますが、その期限、歴史、文化、社会は十分に研究されていません。さらに、ブータン東部も深刻な人口流出に直面している地域の一つです。ブータンの人口と住宅の国勢調査によると、東部地域（サムドゥブ・ジョンカル、モンガル、タシガン、タシ・ヤンツェ、ペマ・ガツェル、ルンツェの6地域）から他の地域への移住者は85,849人に達しました（東部地域への移住者は16,211人でした）。大規模な移住、特に若者の流出のためにサムドゥブ・ジョンカルを除く東部地域の県の高齢化率は7.0を越えています（国全体の高齢化率は5.9(PHCB 2017)です）。現地調査中、私達研究者や学生は、タシガン県の多くの村で、多くの空き家や耕作放棄された農地に遭遇しました。

日本とブータンの農村部の状況は多少の違いはあるものの、過疎化・耕作放棄・高齢化の点ではよく似ています。京都大学とシェラブツェ・カレッジは、農村開発問題に関する共同研究とともに、ブータン・日本・ミャンマーなどで交流プログラムや国際ワークショップを実施し、相互学習の強化と実践に備えています。2019年には、2018年と2019年にブータンでスタディツアーを行ったバルツァム郡の地元の人々とともに、日本でのスタディツアーを実施しました。バルツァム郡はタシガンの街からわずか25 kmの距離にありますが、タシガン県からの移住で最も大きな打撃を受けた地域の一つです。このプロジェクトはバルツァム郡の農業・地域医療・地域資源利用の問題点に焦点を当て、GNHコミュニティ・エンゲージメント・センターと地元の受益者がこれらの問題に挑戦し、農村での人材育成のための協働活動を支援します。



プロジェクト・メンバー・プロフィール

シェラブツェ・カレッジ・メンバー



ツェリン・ワンディ氏
カレッジ学長
(プロジェクト・アドバイザー)



デンダップ・ツェリン氏
研究・産業連携学部長
(プロジェクト・スーパーバイザー)



カルマ・イエゼル氏
講師
(人口・開発センター・コーディネーター)



タシ・ドルジ氏
講師
(医療分野担当)



ソナム・ワンディ氏
講師
(文化分野担当)



シンリー・ナムギェ氏
講師
(農業分野担当)



アビ・チャンドラ・アチャリヤ氏
(副プロジェクト担当)



ソナム・C・ツェリン氏
(副プロジェクト担当)



ペマ・チョーデン氏
(副プロジェクト担当)



日本人メンバー



坂本龍太氏
准教授 (医学博士)
(プロジェクト・マネージャー)



安藤和雄氏
教授
(副プロジェクト・マネージャー) (プロジェクト・コーディネーター)



赤松芳郎氏
准教授



生駒忠大氏
(リサーチ・オフィサー)



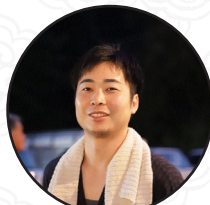
石内良季氏
(リサーチ・オフィサー)



菊川翔太氏
(ジュニア・リサーチャー)



上田隆太郎氏
(ジュニア・リサーチャー)



平山貴一氏
(ジュニア・リサーチャー)



瀬川裕美 (小堀) 博士
(Sr. リサーチ・オフィサー)



安井里緒氏
(ジュニア・リサーチャー)



内田晴夫氏
(アシスト・プロジェクト・オフィサー)



北 由貴子氏
(会計担当)

